

「少年の塔」周辺整備作業

平成 30 年 6 月 16 日(土)

6月16日(土)、伊那公園東大社横にある「少年の塔」周辺の整備作業が行われました。

午前7時、会員・教育会常任委員・幹事のみなさん、総勢57名が集まり、飯澤会長から少年の塔についての話を聞いて、作業に入りました。天候に恵まれ、約1時間で終了できました。塔が磨かれ、周辺の草刈りや木の剪定が丁寧に行われ、大変きれいになりました。

夏の慰霊祭に向けて、これから準備を進めて参ります。8月3日(金)には夏の整備作業を行います。

上伊那教育会長 飯澤 隆 先生のお話

おはようございます。早朝よりお集まりいただき、本当にありがとうございます。作業を始める前に、どうしてこの「少年の塔」がここにできたのかということ、それからなぜ整備作業をするのかということについて、若干話をさせていただきます。

この整備作業は、上伊那教育会の平和教育研修事業として位置づけられています。今年で、終戦後73年が経とうとしています。その終戦から遡ること昭和7年、満州は日本の生命線だということで、満州国が建設されました。そして、日本全国から多くの満蒙開拓義勇軍、それから満蒙開拓青少年義勇軍が募集され、満州国に送り出されました。「国家総動員法」という法律が強化された昭和12年、この上伊那の地からも満州に向けて多くの方々が、送り出されていきました。上伊那教育会の先生方も何人かは、志願して満州の地に赴いております。それから、上伊那教育会が一番主体となって、子どもたちを満州の地に満蒙開拓青少年義勇軍として送り出しています。その数は500名に達しました。そして、昭和20年8月8日当時のソビエト連邦が日本に宣戦を布告して参戦しました。満州の国を守っていた広東軍が壊滅状態となって、そこに入植していた満蒙開拓青少年義勇軍の皆さんも大混乱して、命からがら日本の国に戻ってきたわけです。その帰ってくる途中、91人の尊い命が奪われてしまいました。昭和36年4月、その亡くなられた方々の霊を慰めること、平和を永久に誓うことを願って、体験者及び遺族会、当時の町村会、上伊那教育会を中心とした諸団体が、少年の塔をこの地に建立しました。



それ以来、平和教育研修事業として、上伊那教育会が犯した負の遺産を風化させない、それから永久に平和を誓うという意味を込めて、この少年の塔周辺の整備作業を行い、さらに「少年の塔慰霊祭」を行って来ています。今日は、このようなことを頭の中に置いていただき、作業をしていただければと思います。本当に危険を伴う作業となりますので、ぜひ安全に気をつけて作業を行ってください。本日は、よろしくお願いたします。

作業の様子

「作業開始時」



「公園内」



「少年の塔周辺」



＜参加者の声＞

- ・飯澤会長のお話を聞いて、少年の塔周辺の作業を、平和教育研修事業として、慰霊の気持ちをもって行えた。
- ・昨年、教頭会で「満蒙開拓平和記念館」を訪れ様々な資料を拝見した。今日の平和を考え、満蒙開拓青少年義勇軍の皆さんの尊い犠牲を偲びながら、作業を行えてよかった。

『少年の塔慰霊祭』

- 1 日時 8月4日（土）8：00～8：30
- 2 場所 伊那公園 少年の塔の前（伊那公園東大社横）
【多くの皆様のご参加を、お待ちしております。】

